

1 学習指導の工夫・改善

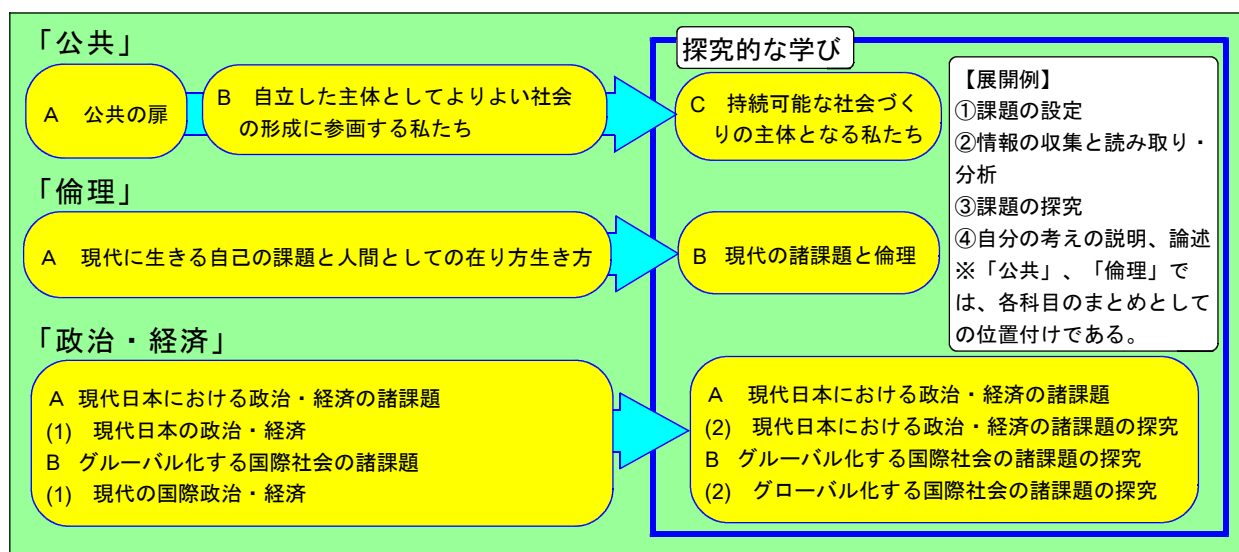
(1) 各教科等における探究的な学び

新学習指導要領では、学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育成するために、教科等横断的な学習を充実させることが求められている。

各教科においては、「探究」の名称が付されていない科目等についても、それぞれの内容項目に応じて、探究的な活動は取り入れられるべきものである。各教科における探究的な学びには、探究のプロセス全体を通して資質・能力を育成するだけでなく、「整理・分析」や「まとめ・表現」など探究のプロセスの一部に焦点を当てることも考えられる。この際、「考えるための技法」を効果的に活用することが重要である。

公民科においては、「公共」、「倫理」、「政治・経済」が科目としてあり、それぞれの内容項目に応じて、探究できるように指導の工夫が必要である。

「公共」については、「C 持続可能な社会づくりの主体となる私たち」において、大項目Aで身に付けた選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理などを活用するとともに、大項目A及びBで扱った課題などへの関心を一層高めるよう指導することや、個人を起点として、自立、協働の観点から、多様性を尊重し、合意形成や社会参画を視野に入れながら探究できるよう指導することが重要である。また、「倫理」については、「B 現代の諸課題と倫理」において、人間としての在り方生き方についての見方・考え方を働かせ、現実社会の倫理的諸課題について探究することができるよう指導することが重要である。「政治・経済」については、「A (2) 現代日本における政治・経済の諸課題の探究」及び「B (2) グローバル化する国際社会の諸課題の探究」において、政治及び経済の基本的な概念や理論などの理解の上で、理論と現実の相互関係を踏まえながら、事実を基に多面的・多角的に探究できるよう学習指導の展開を工夫することが重要である。これらを整理すると次のとおりになる。



(2) 教科等横断的な視点を意識した年間指導計画の作成

公民科の各科目の指導計画の作成に当たっては、中学校社会科及び特別の教科である道徳、高等学校公民科に属する他の科目、地理歴史科、家庭科及び情報科並びに特別活動などとの関連を図るとともに、項目相互の関連に留意しながら、全体としてのまとまりを工夫し、特定の事項だけに指導が偏らないようにすることが重要である。

次の表は、「公共」の年間指導計画の例である。「公共」の指導計画の作成に当たっては、全体としての調和のとれた指導計画を作成し、内容の全般にわたって偏りのない指導をする必要がある。特に、大項目の「A 公共の扉」については、この科目の導入として扱われるようになっており、そのねらいを達成できるよう適切な授業時数を当てる必要がある。

教科名	公民科	科目名	公共	
科目の目標	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身に付ける。			
履修学年	1 学年	単位数	2 単位	
月	単元	学習内容	指導・評価の留意点等	関 連
4 5 6	A 公共の扉 (10時間)	公共的な空間を作る私たちなど	内容のB及びCで活用する社会に参画する際の選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論や、公共的な空間における基本的原理を学習する。	【中学校社会(公民分野)】 【家庭基礎】 「青年期の自立と家族・家庭」
7 8 9 10 11	B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち(50時間)	(1)主として関与する事項、(2)主に政治的、(3)主に経済的に関わる事項	内容のAで身に付けた資質・能力を活用して現実社会の諸課題を、政治的主体、経済的主体、法的主体、様々な情報の発信・受信主体として議論なども行い考察、構想する。	【中学校社会(公民分野)】 【家庭基礎】 「C持続可能な消費生活・環境」 【家庭総合】 「C持続可能な消費生活・環境」
12 1 2 3	C 持続可能な社会を築く私たち(10時間)	学習内容は(1)エ、オ参照	※「主体的に学習に取り組む態度」の評価については2(1)ウ、エ、オ参照	【地理総合】 「C持続可能な地域づくりと私たち」 【総合的な探究の時間】 例「地域活性化に向けた取組」

次の表は、「倫理」の年間指導計画の例である。「倫理」の指導計画の作成に当たっては、「学校における道徳教育は、人間としての在り方生き方に関する教育を学校の教育活動全体を通じて行うことによりその充実を図るものとし、各教科に属する科目、総合的な探究の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、適切な指導を行うこと」という道徳教育の目標に基づき、この科目の特質に応じて適切な指導をすることが重要である。

教科名	公民科	科目名	倫 理	
科目の目標	人間としての在り方生き方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身に付ける。			
履修学年	2 学年	単位数	2 単位	
月	単元	学習内容	指導・評価の留意点等	関 連
4 5 6 7 8 9	A 現代に生きる自己の課題と人間としての在り方(50時間)	(1)人間として在り方、(2)国際社会に生きる日本人としての在り方	「B現代の諸課題と倫理」における諸課題の関わり方について人間を深く理解し、生徒の在り方について自覚を促すこと、(2)国際社会に生きる人間としてよりよく生きていくこと、(3)倫理の探究を通して人間としてよりよく生きていくこと、(4)倫理の探究を通して人間としてよりよく生きていくこと、(5)倫理の探究を通して人間としてよりよく生きていくこと」など	【中学校 道徳】 「A主として自分自身に関すること」 「C主として集団や社会との関わりに関すること」など 【公共】 「A公共の扉」

10	B 現代の諸課題と倫理 (20時間)	(1)自然や科学技術に関わる諸課題と倫理	単に概念や理論を具体的な事例に当てはめて考えることができるだけでなく、最終的には、自己の人格の形成に資するもの、自分自身の人生観、世界観ないし価値観を確立できているかについて評価する。 ※「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、2(2)ウ、エ、オ参照	【家庭基礎】 「A人の一生と家族・家庭及び福祉」 【総合的な探究の時間】 例「外国人の生活者とその人たちの多様な価値観」 【政治・経済】 「Bグローバル化する国際社会の諸課題」
11				
12				
1	B 現代の諸課題と倫理 (20時間)	(2)社会と文化に関わる諸課題と倫理	単に概念や理論を具体的な事例に当てはめて考えることができるだけでなく、最終的には、自己の人格の形成に資するもの、自分自身の人生観、世界観ないし価値観を確立できているかについて評価する。 ※「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、2(2)ウ、エ、オ参照	【家庭基礎】 「A人の一生と家族・家庭及び福祉」 【総合的な探究の時間】 例「外国人の生活者とその人たちの多様な価値観」 【政治・経済】 「Bグローバル化する国際社会の諸課題」
2				
3				

次の表は、「政治・経済」の年間指導計画の例である。「政治・経済」の指導計画の作成に当たっては、特に、大項目A及びBそれぞれの(2)に位置付けられている「探究する活動」について、適切かつ十分な授業時数を当てる必要がある。また、この科目の内容の特質に応じ、学習のねらいを明確にした上でそれぞれ関係する専門家や関係諸機関等との連携・協働のために積極的に働きかけ、これらを活用した学習活動を指導計画に適切に位置付けることが求められる。

教科名		公民科	科目名	政治・経済
科目の目標		社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身に付ける。		
履修学年		2学年	単位数	2単位
月	単元	学習内容	指導・評価の留意点等	関連
4	A 現代日本における政治・経済の諸課題 (35時間)	(1) 現代日本の政治・経済	現代日本の政治・経済に関わる諸課題について多面的・多角的に考察、構想することで、A(2)で活用することが予想される概念や理論を身に付けることができるよう指導し、評価する。	【中学校社会(公民分野)】 「B私たちと経済」 「C私たちと政治」 【公共】 「B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」
5				
6				
7	A 現代日本における政治・経済の諸課題 (35時間)	(2) 現代日本における政治・経済の諸課題の探究	A(1)における学習の成果を生かし、政治及び経済の基本的な概念や理論などの理解の上で、理論と現実の相互関係を踏まえながら、事実を基に多面的・多角的に探究する。	【中学校社会(公民分野)】 ※同上 【中学校社会(地理分野)】 「B世界の様々な地域」 【中学校社会(歴史分野)】 「C近現代の日本と世界」 【公共】 「B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」
8				
9				
10	B グローバル化する国際社会の諸課題 (35時間)	(1) 現代の国際政治・経済	現代の国際政治・経済に関わる諸課題について多面的・多角的に考察、構想することで、B(2)で活用することが予想される概念や理論を身に付けることができるよう指導し、評価する。	【中学校社会(公民分野)】 ※同上 【公共】 「C 持続可能な社会づくりの主体となる私たち」
11				
12				
1	B グローバル化する国際社会の諸課題 (35時間)	(2) グローバル化する国際社会の諸課題の探究	※「思考力、判断力、表現力等」の評価については、2(3)ウ、エ、オ参照	【総合的な探究の時間】 例「外国人の生活者とその人たちの多様な価値観」 【公共】 「C 持続可能な社会づくりの主体となる私たち」
2				
3				

2 新学習指導要領における指導と評価の計画例

(1) 公共の計画例「C持続可能な社会づくりの主体となる私たち」

ア 単元の目標

持続可能な地域、国家・社会及び国際社会づくりに向けた役割を担う、公共の精神をもった自立した主体となることに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、現代の諸課題を探究する活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。

- ・地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見だし、その課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを説明、論述する。
- ・持続可能な社会づくりについて、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。

イ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見だし、その課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを説明、論述している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な社会づくりについて、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

ウ 単元の指導と評価の計画（10時間）

時間	問い、ねらい、言語活動等	知	思	態	
第1次 【1時間】	<p>【単元を貫く問い】（個人で設定した問い）</p> <p>【問い】 持続可能な社会づくりを担う主体となることに向け、私たちが解決に取り組むべき、まちづくりにおける諸課題はどのようなものがあるだろうか。</p> <p>自分が探究したい問いを設定し、その解決に向けた見通しを立てる。</p>			●	<p><「総探」との関連> まちづくりの課題についてSDGsの観点で考察できるように促す。</p> <p><大項目Cの「問い」> 生徒自らが探究する課題を見いだすことができるようにする。</p>
第2次 【8時間】	<p>【問い】 まちづくりにおける諸課題を解決するための提言（仮説）について、その妥当性や効果、実現可能性は十分か。</p> <p>中間報告</p> <p>それぞれの発表内容について、提言の妥当性や効果、実現可能性といった点から質問・意見を出し合い、提言を考察、構想する際のアイデアになるようにする。</p>		●		<p>設定した問いが、自己の在り方生き方と関わるものとなるよう促す。</p>
第3次 【1時間】	<p>【まとめの問い】（個人で設定した問い）</p> <p>単元を貫く問いに対する答えを考察し、新たに追加した内容や疑問点などにつながった学習活動を見いだす。</p>		○	○	<p><主体的に学習に取り組む態度の評価の工夫> 「指導に生かす評価」として、中間報告でICTを活用 ※ 工、才参照</p>

※ 「○」：評定に用いる評価、「●」：学習改善につなげる評価（以下同様）

エ 学習指導案（8時間目／10時間中）

○ 本時の目標

- ・まちづくりにおける諸課題について、その解決に必要なことについて、考察、構想することができる。
- ・まちづくりにおける諸課題を解決するための提言（仮説）について、その妥当性や効果、実現可能性などを指標にして他者と議論することを通して再検討でき、新たな解決策（提言）の見通しをもつことができる。

○ 本時の展開

過程	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入	【問い】まちづくりにおける諸課題を解決するための提言（仮説）について、その妥当性や効果、実現可能性は十分か。	
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内でそれぞれが設定した問いに対する現段階での提言（仮説）について発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの発表内容について、提言の妥当性や効果、実現可能性といった点から質問・意見を出し合い、提言を考察、構想する際のアイデアになるようにする。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りを行い、単元を貫く問いに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習と中間報告会を踏まえ、単元を貫く問いに対する答えを考察させ、新たに追加した内容や疑問点につなげさせる。

・発表形式は任意とし、媒体はICT（スライド、パワーポイント）、紙芝居、模造紙ポスターなど自分が効果的と考えるものを使用する。
 ・グループ内での発表の際、Google Jamboardを使用し、「よいところ」を黄色、「疑問に思ったところ」を赤色の付箋で入力し、お互いの意見を共有する。その後、「取り入れたいアイデア」を緑色の付箋に書き出して、自分の提言の改善の見通しを立てる。

■B評価の具体例
 「それぞれの提案（仮説）をグループで共有しながら、事実を基にその妥当性や効果、実現可能性などについて他者と議論し、協働して考察、構想している。」「グループでの議論を通して、自分の提案を改善するために他者の意見を取り入れるなど主体的な態度で臨んでいる。」

■評価の留意点
 ・C評価の生徒への手立てとして、他の生徒のスライド等を見せることや、自分へ寄せられたアイデアや意見を取り入れ自己の提言を改善させることが想定できる。また、他者からの意見を受けて、最初の提言と中間報告後の提言の違いを比較するように助言したり、自分の考えが深まりを見せたのかについて尋ねたりすることが考えられる。
 ・評価方法：プレゼンテーション資料及び内容、Google Jamboardの記述

オ 評価資料

(ア) 学習支援ソフト（Google Jamboard等）の活用

クラスメートに、自分の発表に対する意見や改善のアイデアを付箋で書き出してもらおう。

取り入れたいアイデアを自分で書き出し、自分の提言の見通しを立てる。

ここでは「学習改善につなげる評価」(●)を行い、これまでの学習を踏まえ、単元を貫く問いに対する答えを考察させ、新たに追加した内容や疑問点などにつながった学習活動を見いだしているかについて、Google Jamboardの記述から見取り、認め励ますとともに必要に応じて適切な支援を行う。

(イ) 具体的な評価例

※学習支援ソフトの「取り入れたアイデア」の記述

- A：グループでの議論を通して、自分の提案を改善するために他者の意見を取り入れ、助言をもらうなど主体的な態度で積極的に臨んでいる。
- B：グループでの議論を通して、自分の提案を改善するために他者の意見を取り入れ、助言をもらうなど主体的な態度で臨んでいる。
- C：グループでの議論を通して、自分の提案を改善するために他者の意見を取り入れておらず、助言をもらわないなど主体的な態度で臨んでいない。

※評価の総括の仕方については、令和3年度の手引を参照。

(2) 倫理の計画例「B現代の諸課題と倫理 (2)社会と文化に関わる諸課題と倫理」

ア 単元の目標

様々な他者との協働、共生に向けて、人間としての在り方生き方についての見方・考え方を働かせ、他者と対話しながら、現代の諸課題を探究する活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。

- ・福祉、文化と宗教、平和などについて倫理的課題を見いだし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述する。
- ・現代の諸課題と人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりする。

イ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉、文化と宗教、平和などについて倫理的課題を見いだし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして、多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の諸課題と人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりしている。

ウ 単元の指導と評価の計画 (10時間)

時間	問い、ねらい、言語活動等	知	思	態
第1次 【1時間】	<p>【単元を貫く問い】社会と文化に関わる倫理的課題について、どのように選択・判断をしていけばよいか。</p> <p>【問い】社会と文化に関わる倫理的諸課題を見つけよう。</p> <p>福祉、文化と宗教、平和などについての倫理的課題を見いだす。※オ(ア)参照</p>			●
第2次 【2時間】	<p>【問い】現実社会の倫理的諸課題について、どのような先哲の思想を基に探究することができるだろうか。</p> <p>倫理における課題探究的な学習の要点を理解する。</p>		●	
第3次 【6時間】	<p>【問い】私たちが様々な他者と協働、共生していくためにはどうしたらよいか。</p> <p>社会と文化に関わる倫理的課題の解決に向けて、倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探究する課題の設定、資料の読み取り ・中間発表、グループ対話 ・レポートの作成 ・最終発表会と発表内容に関するグループ対話 			●
第4次 【1時間】	<p>【まとめの問い】社会と文化に関わる倫理的諸課題についてどのように選択・判断をしていけばよいか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習を振り返るワークシートの作成 <p>単元のはじめに考えた【単元を貫く問い】に対する自身の考えと本時における考えとを比較しまとめる。</p>			○

<家庭科との関連>
家族や福祉の問題を取り扱う際に関連を図ることが可能である。

<「総探」との関連>
例：見学旅行で、北方領土元島民の講話や、沖縄における基地問題に関わる講話等を実施し、「人権保障」の観点から考察する学習活動などが考えられる。

エ 学習指導案（10時間目／10時間中）

○ 本時の目標

- ・これまでの学習を振り返り、自身の考え方の変化や深まりなどに着目し、これからの学習や生活の中で、考えを深めたり、まとめたりする上で生かしていきたい事柄を見いだす。
- ・他者と共によりよく生きる自己を形成することに向けて、新たに探究したい倫理的な課題を見いだす。

○ 本時の展開

過程	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入	<p>【問い】社会と文化に関わる倫理的課題について、どのように選択・判断をしていけばよいか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習レポート発表会の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習レポート発表会の際の他者からの講評等を振り返り、自らと異なる視点や考え方について理解し、自分の考えを改めて吟味する。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会までの学習を振り返り、自らの思索の変化を確認したり、対話を通して新たに生じた疑問や関心を明確化したりしながらワークシートを完成させ、その内容についてペアワーク等により交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を振り返り、自分の到達点を他者と共有しながら新たな疑問や関心について確認し、それが新たな探究的な学習の出発点になることを意識させる。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を振り返り、他者と共によりよく生きる自己を形成することに向けて、新たに探究したい倫理的な課題を見いだす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の様子やこれまでの準備の様子を総括し、全体に向けて評価できる点を知らせ、今後の学習につながるよう配慮する。

<主体的に学習に取り組む態度の評価の工夫>
 例：ICT活用
 発表会（前時）の際に、プレゼンテーションソフトを活用し、自身の記述や相互評価の記述を「学習履歴」として記録・保存することにより、他者の視点や考え方を参照しながら本時の考察を深め、思索の深まりを促す効果が期待できる。

発表会で使用したレポートのみならず、過去のワークシート等の学習履歴等も活用する。

オ 評価資料

(ア) ワークシート等の活用

【第1次】
 ①社会と文化に関わる諸課題の中で、倫理的な課題と考えられるものを挙げてみよう。
 ②上述した倫理的課題について選択・判断する際に、参考となりそうな先哲の考え方を挙げてみよう。
 ③本時の中で、参考になった友達の意見や考え方を挙げてみよう。

■B評価の具体例
 「社会と文化に関わる諸課題の中で倫理的課題を見いだしその倫理的課題について選択・判断する際に参考になりそうな先哲やその考え方を見いだしている」

【第3次】
 ①社会と文化に関わる諸課題と倫理の中で探究してみたい倫理的課題は何か。その理由も書こう。
 ②上述した倫理的課題について選択・判断する際に、手掛かりとしたい先哲の考え方と、その理由も書こう。
 ③課題探究に向けて、今後の学習で必要なことを列挙してみよう。

■B評価の具体例
 「自身が探究したい課題について、探究してみたい理由や、自身と社会との関わりについて記述できている」「倫理的課題について選択・判断する際に手掛かりとしたい先哲と、なぜその先哲を手掛かりとしたいのかについて記述できている」

■評価の留意点
 C評価の生徒への手立てとして倫理的課題と自身との関わりや、先哲との関わりが明確化するよう問い掛けを行う。

(イ) 具体的な評価例 ※ワークシートの記述

- A：他者との対話を通して自身の考えの変化や深まりに着目し、新たに探究したい倫理的課題とその理由について具体的に考察している。
- B：他者との対話を通して自身の考えの変化や深まりに着目し、新たに探究したい倫理的課題を見いだしている。
- C：他者との対話を通しての自身の考えの変化や深まりが浅く、新たに探究したい倫理的課題が見いだせていない。

※評価の総括の仕方については、令和3年度の手引を参照。

(3) 政治・経済の計画例「B グローバル化する国際社会の諸課題 (2) グローバル化する国際社会の諸課題の探究」

ア 単元の目標

社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、他者と協働して持続可能な社会の形成が求められる国際社会の諸課題を探究する活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。

- ・グローバル化に伴う人々の生活や社会の変容、地球環境と資源・エネルギー問題、国際経済格差の是正と国際協力、イノベーションと成長市場、人種・民族問題や地域紛争の解決に向けた国際社会の取組、持続可能な国際社会づくりなどについて、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述する。
- ・グローバル化する国際社会の諸課題について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする。

イ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化に伴う人々の生活や社会の変容、地球環境と資源・エネルギー問題、国際経済格差の是正と国際協力、イノベーションと成長市場、人種・民族問題や地域紛争の解決に向けた国際社会の取組、持続可能な国際社会づくりなどについて、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化する国際社会の諸課題について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。

ウ 単元の指導と評価の計画 (15時間)

時間	問い、ねらい、言語活動等	知	思	態
第1次 【2時間】	<p>【単元を貫く問い】グローバル化する地域や国際社会の諸課題を解決するために、どのように対応するとよいだろうか。</p> <p>【問い】日本の多文化共生を巡る実情を理解し、私たちはどのような行動や態度を取ればよいだろうか。</p> <p>多文化共生を巡る日本の過去の状況から、多文化共生社会の実現に向けた現在の日本の取組を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本や地域社会が選択してきた共生の歴史を理解し、将来を担う高校生にどのようなことが求められているかを考える。 		●	
第2次 【3時間】	<p>【問い】地域で取り組む多文化共生の取組から見えてくる課題とその解決に向けた行動とは何か。</p> <p>身近な社会における多文化共生社会の課題を見だし、望ましい多文化共生の在り方を多面的・多角的視点で考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら立てた問いを基に地域社会の課題解決のために必要な手立てを考察し、結果にまとめる。 		●	●
第3次 【8時間】	<p>【問い】地域社会の課題を踏まえて具体的な解決策を考えよう。</p> <p>多様性を受け入れる社会の実現のため、我々はどのような支援や工夫ができるのか、様々な視点から考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政、企業、個人など様々な視点から実現可能な解決策を考察し、持続可能な取組を考える。 ・世代間の公平、地域間の公平、男女間の平等、社会的寛容、貧困削減、環境の保全、経済の開発、社会の発展を調和の下に進めていくことが必要であることに留意して具体的な政策を探究する。 		○	
第4次 【2時間】	<p>【まとめの問い】グローバル化する地域や国際社会の諸課題を解決するために、どのように対応していけばよいだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポスターセッションの形式で発表し、生徒同士の相互評価後、自己評価を行う。 			

SDGsの観点に関連付けて、考察、構想する。

<「総探」との関連>
例：総合的な探究の時間で取り組んだ調査を活用

<主体的に学習に取り組む態度の評価の工夫>
例：途中でICTを活用した見取り
※(2)工、才参照

第1～3次の探究を通して、グローバル化する国際社会の諸課題を解決するために、よりよい社会の在り方について自分の考えを説明、論述できたか、単元の導入で立てた探究の見通しについて、どの程度達成できたのかについて振り返りを行う。

エ 学習指導案（3時間目／15時間中）

○ 本時の目標

- ・多文化共生に向けたこれまでの地域社会の取組及びアンケート調査の結果から、顕在化している課題について考察する。
- ・多文化共生社会の実現に向け、私たちが具体的に取ることのできる行動や支援などについて考察する。

○ 本時の展開

過程	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入	<p>【問い①】地域社会における多文化共生の課題には、どのようなものがあるだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提示された資料から地域の現状について考察する。 	<p>自治体が作成した多文化共生に関する『まちづくりアンケート調査』の結果から、地域に住む外国人が生活面、就労面、制度面などについて、どのようなことを考えているかを知る。</p>
展開	<p>【問い②】私たちができる行動や支援として、どのようなことが考えられるだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが実現可能な取組を検討し、問いとして設定する。 ・設定した問いを探究する上で必要になることを考える。 	<p>■B評価の具体例 「地域の実情について理解し、調査結果を基に、私たちができる行動や支援等について考察している。」</p> <p>探究活動に当たり、問いを設定する際に、調査可能か、重要度が高いか低いか、問いとして設定した際のメリット及びデメリットを座標に記して分析し、探究可能な問いを設定する。</p> <p>例：地域住民にアンケートを実施する。 行政との関わりを役場職員に聞く。 ボランティア団体の取組を調査する。</p>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・各自で設定した問いをワークシートにまとめるとともに、グループ内で発表する。 	<p>■評価の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・C評価の生徒への手立てとして、提出物の添削指導やポートフォリオ等の活用による声かけなどが考えられる。 ・評価方法 ワークシート

オ 評価資料

(ア) ワークシート等

問い(候補)を出し、問いとして適切か考え、探求課題としての問いを決定しよう！

問い候補(知りたいこと)	その問いにした時 良さそうな点・役立つ点	その問いにした時 困りそうな点	重要度
			高い/低い
			高い/低い
			高い/低い
			高い/低い
			高い/低い

A: Google フォームを利用して問いの候補を分析し、自分たちが探求可能な問いの設定をしていこう。
B: 決定した問い

Googleフォームを活用して座標を作成し、問いを設定した時のメリット（調査可能である、地域に根差した課題である、提言可能であるなど）とデメリット（調査が困難である、社会の全体の課題ではなく個人の課題に偏っているなど）、実生活における重要度（高い/低い）などの観点から分析し、適切な問いを設定していく。

(イ) 具体的な評価例 ※ワークシートの記述

- A: 多文化共生の実現に向け、地域が抱える課題について、諸資料から多面的・多角的に読み取り、その解決に向けた行動や支援について具体的かつ実現可能な問いを立て、考察・表現している。
- B: 多文化共生の実現に向け、地域が抱える課題について、諸資料から読み取り、その解決に向けた行動や支援について問いを立て、考察・表現している。
- C: 地域が抱える課題について、諸資料から読み取ることができず、解決に向けた行動や支援についての問いが立てられていない。

※評価の総括の仕方については、令和3年度の手引を参照。

Topic

「主権者教育」の充実～文部科学省「実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究」北海道登別青嶺高等学校「公民」の取組（研究1年目）～

主権者教育を推進する上では、正解が一つに定まらない課題に対して、生徒が、異なる意見を整理して議論を交わす中で、納得解を見いだしながら合意形成を図っていく過程が重要となる。

北海道登別青嶺高等学校では、令和3年度からの2年間、公民科を中心に本研究を行っており、ここでは、本校で取り組んでいる主権者教育の実践例の一部について示す。

【研究主題】

現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通じて、主権者として必要な資質・能力を育むための教科等横断的な学習プログラム（育成を目指す資質・能力をベースに整理した主権者教育の全体計画）及び新科目「公共」の単元計画の開発～公民科及び学校設定科目「じもと学」を中核とする、地域と連携した主権者教育の実践～

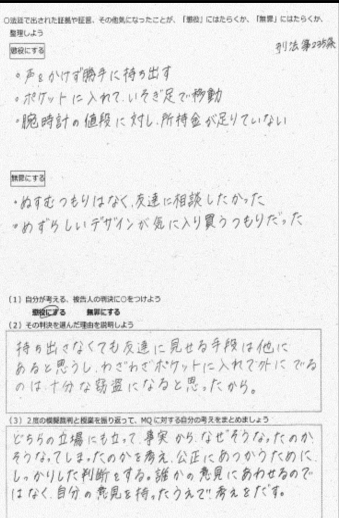
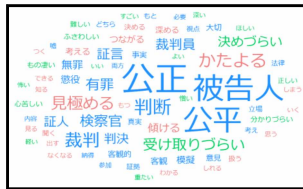
【主な実践（模擬裁判）の概要】

新科目「公共」の実施を見据え、「社会参加と合意形成に向けて、市民として裁判に参加するために必要な公正・公平な判断とは何か」を単元を貫く問いとして「法や規範の意義及び役割、司法参加の意義」に係る単元計画を作成し、これに基づく研究授業を実施した。「NHK for school『昔話法廷』」を教材にした模擬裁判を通じて、裁判員に求められる公平・公正な判断について、多面的・多角的に考察させた。

【模擬裁判における学習活動及び評価】

札幌地方裁判所室蘭支部及び北海道みらい法律事務所と連携し、現職の裁判官や弁護士、校長及び教員が演じる模擬裁判を実施した。

模擬裁判を通じて「単元を貫く問い」として設定した「社会参加と合意形成に向けて、市民として裁判に参加するために必要な公正・公平な判断とは何か」について、考察したことをワークシートで表現したり、テキストマイニングを活用して全体で共有したりすることで学習の深化を図った。



ワークシート

模擬裁判における生徒のワークシートの記述の比較 「単元を貫く問い」に対する生徒の考察及び表現

<生徒Aの1回目の記述>
「加害者側・被害者側のどちらの立場も考えること」（原文のまま記載）

<生徒Aの2回目の記述>
「公正・公平な判断をするためには、それぞれの立場になって考えてみてどちらかにかたよりにないように判断する。どちらか一方の主張だけではなく、両方の主張を聞き、状況証拠や証言をもとに考えることが大切である。ただし、裁判に参加しているのは人間なので間違いや嘘もあるかもしれないので、その判断は難しい。」（原文のまま記載）

<分析> 指導と評価の一体化に向け、「単元を貫く問い」を適切に設定することにより、単元で生徒に身に付けさせたい資質・能力を具現化するとともに、評価規準を明確化することができた。

【主な研究成果等】

○ 本研究の中核となる「現代社会」、地域研修で地域課題を考察する「総合的な探究の時間」、地域のガイドブック等を作成する「特別活動」等の多様な学習において、「じもとの活性化」の視点で構成することにより、系統的・継続的な学習プログラムを構築することができた。

主な質問項目	肯定的に回答した生徒の割合	
	1回目（7月）	2回目（2月）
政治に参加することは大切だと思う	89.3%	92.3%
将来、政策決定など、積極的に政治に参加したいと思う	50.9%	61.1%
選挙権が与えられたら投票に行こうと思う	79.5%	87.7%

○ 上記の質問項目において、本研究に係る取組を通じて肯定的回答が増加するなど、本校が課題としていた「現実の社会に主体的に関わろうとする姿勢や態度」の育成や「現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通じて、主権者として必要な資質・能力」のうち主体的に社会に参画する態度の育成に一定の成果が見られている。